

# JPDA 11月定例理事会議事録

日 時：平成27年11月11日（水）午後1時30分～午後5時

場 所：文京シビックセンター（区民会議室） 5階 会議室 A

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後樂園」駅前

出席者：理事22名中19名（加藤芳夫、伊藤 透、井上 聡、牛島志津子、  
梅原 真、江藤正典、小川裕子、加藤和美、加藤憲司、菊地泰輔、  
竹内清高、田川雅一、中森恭平、名久井貴信、信藤洋二、藤田 隆、  
森 孝幹、八木勇達、山崎 茂）  
欠席届（畝野裕司、永島 学、丸本彰一）  
監事2名中2名（池田 毅、島崎英雄）

議事の経過：

定款第31条（議長）により加藤理事長を議長に選出し、議長は直ちに本日理事会出席者19名を確認、定款第32条（決議）による出席者が過半数に達していることを確認し、定款第34条により議事録署名人が加藤芳夫理事長、伊藤透副理事長、池田毅監事、島崎英雄監事の4氏であることを確認し、議事に入る。

（決裁事項の議案号数はゴシック。）

## 第1号議案 新入会員入会審査の件

本日の理事会までに入会申込み法人2社、個人2人があり、定款6条（会員資格の取得）並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記の法人2社、個人2人の入会を承認した。

### （1）法人会員（2社）

<東日本>

株式会社マックスラジアン（推薦者＝竹内清高）

<中日本>

東海漬物株式会社（推薦者＝中越 出）

### （2）個人会員（2人）

<東日本>

加藤大介（推薦者＝時田秀久）

鈴木樹子（すずき みきこ）（推薦者＝中越 出）

## 第2号議案 再入会員審査の件

本日の理事会までに再入会申込み個人1人があり、定款6条(会員資格の取得)並びに会員規定に基づき入会審査を行い、下記の個人1人の入会を承認した

(1) 個人会員 (1人)

<東日本>

名久井貴信 (法人代表変更のため) [27年11月1日入会希望]

※役員選挙規定第12条(役員の選出基盤の変更)「役員の選出基盤に変更が生じた場合でも、任期中は当初の選出基盤が継続しているものとみなす。」により、これまで通り理事を継続いただきます。

**第3号議案 退会承認の件**

本日の理事会までに退会届を提出した法人会員2社、個人会員3人の退会を承認した。

(1) 法人会員 (2社)

<東日本>

カルピス株式会社 (事業再編による統合のため) [27年12月末退会希望]

<西日本>

株式会社長崎堂 (会社の業務に専念するため) [27年9月末退会希望]

(2) 個人会員 (3人)

<東日本>

秋葉英雄 (花王退職のため) [27年10月末退会希望]

田中春雄 (事業解散のため) [27年12月末退会希望]

<西日本>

荒木志華乃 (家業と画業に専念するため) [27年9月末退会希望]

**第4号議案 協会名義使用承認の件**

本日理事会までに下記の協会名義使用、JPDA賞の交付及び審査員の派遣依頼がありこれを承認した。なお、日本印刷産業連合会から依頼の審査員派遣に関しては、1月理事会と同日であることから、伊藤副理事長に出席いただくこととした。また、4月12日開催予定の贈賞式にも伊藤副理事長に出席いただくこととした。

(1) 後援名義の使用依頼

- ・「Next Eco Design 展 2015 : TOKYO STYLE」に対する後援名義使用依頼  
主催 公益社団法人 日本インダストリアルデザイナー協会
- ・「World Interiors Week 2016 in Japan」に対する後援名義使用依頼  
主催 公益社団法人 日本インテリアデザイナー協会  
公益財団法人 日本デザイン振興協会

- ・「第55回 2016年ジャパンパッケージングコンペティション」に対する後援名義使用並びに協会賞の交付、審査委員派遣の依頼  
主催 一般社団法人 日本印刷産業連合会
- ・「IFFT/インテリア ライフスタイル リビング」に対する後援名義使用依頼  
主催 一般社団法人 日本家具産業振興会  
メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

## (2) 協賛名義の使用依頼

- ・「PAGE 2016」への協賛名義の使用依頼  
主催 公益社団法人 日本印刷技術協会 (JAGAT)
- ・「第81回東京インターナショナル・ギフト・ショー春2016」に対する協賛名義の使用依頼  
主催 株式会社ビジネスガイド社
- ・「新機能性材料展2016」「3次元表面加飾技術展2016」に対する協賛名義使用依頼  
主催 株式会社加工技術研究会、新機能性材料展2016、3次元表面加飾技術展2016

## 第5号議案 正副理事長報告

加藤理事長、伊藤副理事長から下記の報告があった。加藤理事長から、10月31日開催のトークセッションは一般参加者が多く満席であった旨、11月10日には梅原理事と共においしい東北パッケージデザインコンペの審査会に参加したことが補足された。梅原理事からは、課題(前回のコンペでは、折角の入賞作品を採用しなかった企業があった)が全て解消されたわけではないが、前回よりは良い方向で進行している旨が追加された。伊藤副理事長からは、富山デザインフェアで「富山から日本を見てみよう」をテーマに講演したこと、及び入場者が40名程度だったことが補足された。

- 加藤理事長報告
- ・ 9/18 日本印刷産業連合会・設立30周年記念式典、2015印刷文化展に出席。
  - ・ 9/25 「現代日本のパッケージ」展の内覧会・オープニングレセプションに出席・挨拶。(印刷博物館にて。)
  - ・ 10/31 「現代日本のパッケージ」展、トークセッションにモデレーターとして出席。ゲストとして小川理事出席。
  - ・ 11/17 (一社)日本空間デザイン協会主催の空間賞授賞式に出席予定。
- 伊藤副理事長報告
- ・ 10/ 4 富山デザインフェア・パッケージデザインセミナーにて講演。10月1日の学生パッケージデザインコンペは畝野理事が代理審査委員長を務めた。
  - ・ 10/ 8 JIDAミュージアムセミナー(Axisビル4F)に出席。

## 第6号議案 2016年度・顕彰者推薦候補者選定承認の件

2016年度の顕彰者推薦候補は、「JPDA貢献賞」への推薦者は無く、「パッケージデザイン功績賞」に3件の推薦があったが、3件ともに杉浦俊作氏の推薦であり、審議の結果、満場一致で杉浦俊作氏を「2016年度パッケージデザイン功績賞」の候補に内定した。当結果については、伊藤副理事長から杉浦氏に伝達いただき、受諾の可否を確認いただくこととした。なお、杉浦氏の「パッケージデザイン功績賞」への推薦要旨は下記の通りである。

・杉浦氏は若いデザイナーの憧れであり、時代に先駆けて世界性を持ったディレクション、常に新しいクリエイティブが見られるドキドキを提案されてこられた。戦後昭和の日本のパッケージデザインを先頭に立って引っ張るような、常に新しい提案を社会に発信されてきた。その仕事には知的で美しく資生堂のコンセプトを表現しているだけでなく、日本の美の普遍性にもなるデザインのカタチがありました。そして、マーケティングとクリエイティブをうまく統合・調和させている冒険王です。

## 第7号議案 JPDA・VIの検討及び全国会議・国内交流について

### ○ JPDA・VIの検討について

冒頭、加藤理事長から「継続と革新という方針のもと、活動テーマである日本×パッケージ×デザインを哲学する」という活動の一環として、デザインメンテナンスに取り組んだというVI計画デザイン改訂に至る経緯が案内され、田川理事から詳細が案内された。改訂に当たっては、JPDAマークを大切に**文字を少しシャープにする**改訂に止め、その上で、日本のデザイン団体を感じさせるカタチとして、**JPDAとdマークを丸で包んだ案、dマークのみを丸で包んだ案**を検討した。また、名刺・封筒等への展開に関しては、上述2案に加え**dマークのみの赤字案**を検討したことが説明された。

各理事からの評価は、**文字を少しシャープにする+dマークのみの赤字案**への賛同が多く、**丸で包んだ2案**への賛同は、他社マークとの類似性等により少ない傾向であった。

また、全体に文字が小さく読みづらい等の意見があり、次回は現物に則した修正案(原寸)を提案いただくことになった。

### ○全国会議・国内交流について

・加藤理事長から全国会議・国内交流について、下記のような改革案が提案された。

<目的>パッケージデザインで地方貢献を目指す。

<目標>地方会員とJPDAとの接点を増やす。(継続した活動)

地方での会員を増やす。(継続した活動)

<内容>出前講座・パッケージデザインで価値創造

パッケージデザインで生活者の欲しいものづくり

<テーマ>地方のメーカーでも、全国規模のメーカーでも本質的課題は同じ

<企画運営>国内交流委員会+理事長

<先陣企画>各地の1回目担当として、先陣実行する担当

梅原真(地方の仕事)、加藤理事長(全国規模量産の仕事)

・同行参加者を募り、同地で参加者全体ディスカッション

<予算>場所・参加者集めなどは開催地もち、それ以外はJPDA

- ・またこの件に関し、桑理事から新入会員獲得策とからめた「国内交流を全国会議活動から地方セミナー活動にシフト」についての、国内交流委員会の検討結果が案内され、全国会議活動から地方セミナー活動にシフトするのではなく、「全国会議活動と地方セミナー活動に分けて検討すべき」であるとの結論が案内された。
- ・この件に関し、理事・監事から意見が出されたが、要約すると下記の通りである。
  - 地元会員の負担を軽減したい点は理解できるが、全国会議には各地の会員が参加できるというメリットや、地元の会員には各地の会員と交流が出来るというメリットがあり、国内交流委員会の言うように「全国会議活動と地方セミナー活動に分けて検討すべき」で、「それぞれに改善すべき点を明確にすべき」という意見が出された。
  - 「全国会議」を「全国大会」を呼んでいる会員があるが、「全国大会」になると単なる宴会大会になってしまうので、「全国会議」という名称をもう少し考え「金沢会議」とかクリエイティブを感じさせる名称に変更してはどうか。
  - 「全国会議」を新入会員獲得の場と位置づけているが、現実的にはそのようになっていないので、新入会員獲得の場になるように企画すべきである。
  - 地方セミナー活動に関しては、決して上から目線の活動にならないように注意すべきである。やってやるという姿勢は禁物である。
  - 地方セミナー活動に関しては、東北プロジェクトの今後の検討方向でもあるので、検討に際しては国内交流委員会に東北プロジェクトのメンバーを参加させて欲しいとの要請があった。

#### 第8号議案 日本パッケージデザイン大賞のカテゴリー検討案について

- ・名久井理事から、日本パッケージデザイン大賞のカテゴリー検討案について下記の案内があった。

##### \*現状の問題点

- 1、「菓子」カテゴリーにおいて、量販店・CVS等で販売されている「一般菓子」と、対面等で販売されている「専門菓子」の棲み分けが曖昧である。
- 2、今の時代に合ったカテゴリー分けの検討が必要である。
  - 販路、価格帯、その他

\*改善案

1 案、販売チャネル分け(菓子のみ) 13 カテゴリー

- ・菓子（一般菓子：セルフ販売品）と・贈答品・詰め合わせ品(対面販売菓子：百貨店・専門店販売品)
- ・医薬品を独立
- ・海外向け商品を廃し→日本の商品区分で申請

2 案、販売チャネル分け 18 カテゴリー

- ・食品、アルコール飲料、一般飲料、菓子、化粧品・香水をセルフ販売と対面販売に区分する
- ・医薬品を独立
- ・海外向け商品を廃し→日本の商品区分で応募

3 案、価格帯分け 18 カテゴリー

- ・食品、アルコール飲料、一般飲料、菓子、化粧品・香水を通常価格帯と高級価格帯に区分する
- ・医薬品を独立
- ・海外向け商品を廃し→日本の商品区分で申請

4 案、価格帯のみでの区分 7 カテゴリー

～499円、500円～999円、1,000円～4,999円、5,000円～9,999円、  
10,000円～29,999円、30,000円～49,999円、50,000円～

5 案、カテゴリーなし

- ・JPDA賞（15点(仮)）
- ・特別審査員賞（4点(仮)）

その他案：・リニューアル品（旧作・新作のセットで応募）、・プライベートブランド部門、・通信販売品、ネット販売品、・地域産業商品、・コンセプチュアル部門(一般・学生)、デザイン功労賞(デザインの果たした役割が大きかったものに贈る)

\*理事・監事からの意見

- ・この件に関し、理事・監事から意見が出されたが、要約すると下記の通りである。
  - カテゴリーが多くなり過ぎるのも問題であるが、審査段階では判断がしやすくなるメリットもあるので、改善案の1案と2案を一緒にしたような方法が良いのではないか。つまり、審査会場の構成は作品をセルフ販売と対面販売に区分することで審査を容易に且つ適正に行うことが出来、最終段階は両方を合わせて判断するという方法は入賞数も現行と変わらず、チャレンジしてみる価値があると思う。
  - カテゴリーの判断は応募者に任せっきりではなく、JPDA側でも判断する必要がある。

- コンペティションも大切であるが年鑑発刊も大切であることから、年鑑の企画及び編集意図を考慮した入賞作品の選定もあって良いのではないか。そのためには、作品審査の前までに、年鑑の企画及び編集意図が明確になっていることが肝要である。
- その他の改善案の中の「リニューアル賞」や、改善案には無かったが「売れている賞」は、面白いアイデアではないかと思う。
- 海外向けカテゴリーの廃止に関しては、国内向けカテゴリーの中で応募出来るのであれば、問題ないのではないか。（作品が応募出来なくなるのは困る。） この場合、「日本国内での発売(発表)」を前提としている当コンペにおいて、募集要項でどのように説明するのが課題である。
- これまでのコンペの経緯から判断して、全てのカテゴリーから金・銀・銅賞を出す必要はなかったと思う。

#### 第9号議案 アスパック事業について

- ・森理事から資料に沿って、下記の報告があった。
  - ①内閣府より収益事業として8月24日付けで認定されたASPAC事業につき、(独)国際交流基金(以後、基金)との委受託契約書は基金内での調整が長引き、11月9日に届いた。(契約日は9月1日付け。)
  - ②11月6日付けで、ASPAC2015年度予算1,193万4000円(税込)が基金より総額承認された。11月30日までに予算の70%に当たる835万円3,800円(税込)が入金予定である。
  - ③基金からの業務指示書に準ずる受託業務は下記のとおりである。
 

なお、ASPAC実行委員会は時限的な性格を持つことから独立の委員会とはせず、JPDA国際交流委員会の下部組織として位置づける。

    - ・ 企画 : アスパック実行委員会、全部会
    - ・ 事務局 : JPDA 事務局内に設置 (アラン千恵氏採用)
    - ・ 資金・会議 : アスパック事務局 (担当 アラン千恵氏)
    - ・ 国内事業 : アスパック実行委員会、イベント部会、学校部会
    - ・ 海外派遣 : アスパック実行委員会、イベント部会、海外部会
      - ※派遣者は委員+JPDA 全体
    - ・ 広報 : アスパック実行委員会、広報部会、学校部会、スポンサー部会
    - ・ 報告書作成 : アスパック事務局 ©2016年3月中旬までに基金へ提出、月内清算
  - ④2016年 コンペティションについては詳細を詰めている段階であり、纏まり次第関連部門に情報発信の予定である。なお、テーマは「サプライズ」とし、学生らしいユニークな発想、楽しい、新しい「驚き」のあるパッケージデザインを募集予定。また、コンペティション告知は2016年5月～、作品のエントリー(ラフ又はコンセプト

ト以上で提出)は6月末を予定し、WEBに記入見本を掲出する予定である。

作品の受付方法についても、情報保護や審査効率を含めて検討中であり、7月初旬に国内予選→(モックアップ制作期間)→11月下旬にモックアップを写真で提出→12月初旬に国内決勝→2017年1月中旬世界決勝→1月15日審査→16日表彰式→17日デザインフォーラム→18~20日企業研修 以上がコンペティションの概要である。

- ⑤学校部会では、JPDA 会員で美大・デザイン専門学校の先生方に集まっていただき、学生・学校の今や最前線の状況を踏まえたミーティングを東京 10/29、大阪 11/2 に開催した。(東京：加藤芳夫氏、伊藤透氏、山崎茂氏、田村孝治氏、高麗淳子氏、澤井すみ子氏、嶋村眞佐子氏、福井政弘氏) (大阪：藤田隆氏、奥田一明氏、三原美奈子氏、藤井本道氏、延安敬子氏、藤沢和幸氏)
- ⑥その他、タイ(バンコク)事業(11月18日~21日)、中国(北京)、ベトナム(ハノイ)(2016年の旧正月明け以降に実施予定)、国内事業について、「アスパック事業」ビジュアル構築「若い人にとってもわかりやすいビジュアル」について等が報告された。

#### 第10号議案 新入会員獲得に向けての検討

梅原理事(「JPDA あの人を会員に」キャンペーン)と加藤憲司理事(法人会員獲得に向けての検討)から資料に沿って、下記内容が案内された。

「JPDA あの人を会員に」キャンペーンに関しては、総務担当の田川理事に実施に向けて検討いただくことになった。また、法人会員獲得に向けては来期実施に向けて、調査研究委員会で更に煮詰めてもらうことになった。

#### ●「JPDA あの人を会員に」キャンペーン

ステップ1、■リクエスト JPDA会員それぞれから「あの人を会員に」のリクエストをもらう。

■ステキ解説 あの人の「作品」「解説」をカラーA3サイズ1枚にまとめてJPDA事務局に提出。

ステップ2、■まとめ 事務局は提出された「あの人を会員に」資料をまとめて理事に渡す。

ステップ3、■「あの人」決定会議 理事会にて「この人に入ってもらえたらナア」「ヒエーッこの人かあ〜」「そのひとはマズイヨ！」など言いながら「あの人会議」を行い「あの人」を決める。

ステップ4、■「あの人」にアプローチ 「JPDA あの人を会員に」会議におきまして、あの人に決定してしまいました。  
理事会での全員一致の推挙です簡素な入会手続といたしました。どうぞよろしくお願ひします。



●法人会員獲得に向けての検討

「法人会員にとってのJPDAのメリットの明確化と活動実施」

ステップ1、現状の確認 メーカー78社(34%)、コンバーター72社(31%)、  
デザイン・広告81社(35%)

ステップ2、法人会員へのアンケート実施

ステップ3、「勧誘」、「入会后」の双方向の活動を検討

第11号議案 委員会報告

<決済事項>

○国内交流(全国会議)

中森理事から、全国会議について収支計算報告があり、公益会計は、収入1,409,000円、協会補助700,000円、支出合計2,091,002円、収支差額+17,998円を承認した。

また、管理会計は、収入合計936,000円、協会補助0円、支出合計936,000円、収支差額±0円を承認した。

開催日時：平成27年10月2日(金) 13:30～16:50 17:00～17:40 MOBIO見学

会 場：全国会議/クリエーション・コア東大阪 交流会/ホテル阪奈

講 師：岩崎 隆氏 (株式会社ペーパーワールド 代表取締役)

中尾雄二氏 (株式会社ナカニ/にじゅら 代表取締役)

中島潤也氏 (株式会社中島重久堂 代表取締役)

コーディネーター：小山庸子氏 (MOBIO)

出席者数：117名 (内訳：会員 87名 / 非会員 27名 / 一般 3名)

今年の全国会議は「ものづくり大阪の底力」と題して、全国でも有数のものづくり企業が集結する東大阪に、3名の講師とコーディネーター1名、参加者117名を迎えて開催された。今回は新しい演出方法として、事前に委員が現場に出向き取材を敢行、現場の緊張感や熱い思いを「情熱大陸」さながらの演出でビデオに収め上映した。講演では未来を見据える社長の強い眼差しで、職人ならではのこだわりや考えを、大阪人ならではの笑いの精神で冗舌に語っていただき、会場を笑いの渦に飲み込んでいった。印象に残った名言を紹介すると、「従業員であるマダム(おばちゃん)は単なる労働力ではなく、マネジメント能力に優れた戦略的パートナーである」、「難しい顔をして作るのが伝統工芸ではあるが、笑顔が出る現場でありたい。笑顔は優しさを生み、ものづくりに反映される。」これらの名言は私達パッケージデザイナーにも共感できる言葉であった。講演のあとは、三原美奈子氏をファシリテーターに3名の社長さん・小川氏・加藤理事長を交えてのパネルディスカッションが行われた。

全国会議終了後の交流会は会場を、眼下に東大阪の夜景が望めるホテル阪奈に移して開

催された。

## ○西日本(セミナー)

井上理事から、西日本勉強会「つなぐ2」について収支計算報告(公益会計)があり、収入38,500円、協会補助104,500円、支出合計121,570円、収支差額+21,430円を承認した。

開催日時：平成27年8月28日(金) 15:00～17:00

会 場：ACDC;02ギャラリー(地下1階)

講 師：赤坂友昭氏(写真家)

片桐功敦氏(華道家)

出席者数：36名(会員31名 / 一般5名)

今回は福島県の「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」に招聘され、現地で制作活動を行ってきた関西在住の写真家・赤坂友昭氏と書道家・片桐功敦氏を講師に迎え、クリエイターの目から見た「福島」を語ってもらった

お二人からはこのプロジェクトに参加された経緯が話され、華道家の片桐氏からは被災した福島沿岸部に絶滅危惧種の「ミズアオイ」が群生しているとの知らせに、写真家の赤坂氏は阪神大震災で被災した経験から行きたいと思いつつも、興味本位で行くことを躊躇っている時に、プロジェクトの話があったことが契機になったことなどが、それぞれから話された。その後、それぞれが創作時に感じていたことや考えていたことなどを交えながら、二人の作品が紹介された。

生花が縄文土器や化石と対比的に活けられた片桐氏の作品からは、過去と現代の静謐な時間の流れが感じられ、心が解き放たれていくような感覚になった。河原にいた、今は野良犬となった飼い犬の何気ない姿を撮った赤坂氏の作品からは、その犬の眼差しが、今自分がいるべき場所はここでよいのかと、問いかけているようであった。

お二人は、「物見遊山でも何でも良いから、とにかく、多くの人に福島を訪れて欲しい」という共通したメッセージで、講演を結ばれた。

## <報告事項>

### ○展覧会

小川理事から、資料に沿って2016年から隔年で2020年までの3回の展覧会事業計画の概要が案内された。2016年は「日本を包む展・・・もう一度『日本』を本質的に見直す(仮)」。2018年は「言葉のいらぬパッケージデザイン展・・・パッケージクリエイティブの底力(仮)」。最終の年に当たる2020年にはJPDA60周年記念企画展に加え、第3回創作展を開催したい旨が案内された。

現在、2016年の展覧会会場として、渋谷ヒカリエ8/CUBEに使用企画書を提出中であ

ることが案内された。

## ○出版

加藤理事長から、「日本のパッケージデザイン その歩み・その表情」「日本のパッケージデザイン ヨーロッパとの対比」の2回目の重版表紙デザインが紹介された。

## ○教育

山崎理事から資料に沿って、「先輩に学ぼう！ パッケージデザイン基礎講座」の案内があった。現在、受講者は58名を予定している。

- ・日時：2015年11月26日(木)
- ・会場：DIC株式会社 本社 2F 大会議室
- ・講師：1 限目 コンセプトワーク  
大黒大悟 (アートディレクター/グラフィックデザイナー)
- 2 限目 立体デザイン  
近藤香織 (アートディレクター/グラフィックデザイナー)
- 3 限目 グラフィックワーク  
小比類巻蘭 (パッケージデザイナー)
- 4 限目 ロゴ・タイプフェイス  
真野元成 (アートディレクター/グラフィックデザイナー)
- 5 限目 印刷と色  
木村勝則 (包装管理士)
- 6 限目 デザインと知財  
丸山和子 (インダストリアルデザイナー)

## ○広報

- ・田川理事から資料に沿って、広報誌PD23号のコンテンツが案内された。23号は、全国会議 in 東大阪の報告、気になる会社インタビューは「通天閣」、ロングラン商品の秘密は「日清カップヌードル」、会員インタビュー(東日本、西日本)、基礎講座の14回目、新入会員紹介、訃報(秋月繁氏、木村勝氏)、理事長コラム、編集後記等の予定である。

## ○デザイン保護

伊藤副理事長から資料に沿って、デザイン保護委員会の報告資料が案内された。

### 1、HP委員会レポートページの更新

9月29日【Vol. 71】「知財セミナー・応用編の実施報告7/16」

- ・情報発信「デザイン保護ハンドブックを読み解く・応用編セミナーの解説」  
永芳太郎 弁理士 (みずの永芳特許事務所 所長)
- ※ハンドブック以外の講義資料に沿って、会員向けに解説
- ・活動報告「応用編セミナー実施報告」

10月27日【Vol.72】「意匠法の『先願主義』とは？」

・情報発信 「意匠法の先願主義とは？」 梅澤修弁理士（京橋知財事務所）

※独占的であり排他的な力を持つ権利の定め方。「先創作主義」との違いの解説。

## 2、デザイン保護委員会開催

10月26日（JPDA事務局会議室）/18：30～20：30

参加者：時田、徳岡、山本、川淵、伊藤（理事）、丸山（委員長）

議題 1. 第2回9/3セミナー実施後のアンケート集計結果を検討する。

2. 次回セミナーの検討

委員会の今期活動の中で、セミナー実施は2回の予定であったが、既に実施済みのため、3回目のセミナーを計画する方向で話し合う。

※上記の詳細は、インターネットホームページで確認ください。

### ○アーカイブ研究会

信藤理事から資料に沿って、収蔵作品の貸出要項案、貸出申請書案、貸出承諾書案、借用書案が案内された。また、高橋敏氏から寄贈いただいたペンギンズバー及び、工藤青石氏から寄贈いただいた資生堂商品の紹介があった。

### ○東北プロジェクト

加藤理事長から、正副理事長報告の中の「おいしい東北 コンペティション 作品審査」の関連で、作品の出品状況が案内された。

・一般：322点（84点減） ・学生：380点（163点増） ・合計：702点（79点増）

### ○東日本

菊地理事から資料に沿って、11月4日（水）に開催された「Talk Café 2015」[Y2]のお仕事大喜利的商品開発のヒミツが案内された。講師には、（有）スタイルY2インターナショナルの有井まゆ・ユカ姉妹にお願いした。出席者は目標を超える89名であった。

### ○中日本（北陸）

欠席の畝野理事代わり、山崎事務局長から資料に沿って「Talk café 2015 in TOYAMA」が案内された。パネリストには富山出身でグラフィックデザイナーの宮田裕美詠氏を招聘予定。

- ・ 日時 11月25日（水）：13:30 ～ 15:30
- ・ 会費 会員 2,000円、 一般 3,000円、 学生 500円
- ・ 会場 富山市民プラザ 3階 マルチスタジオ

### 第12号議案 事務局報告

山崎事務局長から下記の報告があった。

- ・ 会員状況について

- ・平成28年度事業予算及び平成27年度事業収支決算の作成・承認に関するスケジュールについて
- ・「1月定例理事会」及び「東日本新年デザイン交換会2016」のスケジュールについて

第13号議案 次回理事会開催スケジュール

日時：平成27年1月29日（金）午後1時30分～5時00分

場所：文京シビックセンター(区民会議室) 5階 会議室 A

東京メトロ丸の内線・南北線「後樂園」駅前

※ 当日は、「東日本新年デザイン交換会2016」を銀座・歌舞伎座(セミナー会場)での開催予定ですので、中日本・西日本の役員の皆様も是非ご出席ください。